

## 利用者属性部会の議論の目指すところ・提言のまとめ方

### 1 基本的な考え方

時間・地理・身体・使用言語等の様々な観点から、現在都立図書館を十分に利用・活用できていない人々がいることが考えられる。こうした人々へのサービスを拡げていくため、「滞在型の図書館」としての館内の施設・設備・サービスの改善・工夫や、来館せずに遠隔で利用できるサービス等の充実を行い、誰もが利用できる環境を整えることが必要である。

### 2 議論の目指すところ（定例会へ提示する内容）及び最終的な提言としてのまとめ方

#### 都立図書館利用のためのハードルとなっていることを提示

～例～

- 時間的、地理的、身体面での事情等により来館が困難
- 使用言語の面で利用が困難
- 様々な理由で利用（調査研究等）がしづらい
- 都立図書館に対し「敷居の高さ」を感じるなど、心理的なハードルがある



#### 各利用者属性に対応する形で、望ましい利用環境を検討、提示

～ポイント～

- 「来館利用のための環境改善・工夫」、「非来館型サービスの充実」の2つの観点から検討する。
- 「数年以内の実現可能なもの」、「中長期的な視点で実現に取り組むもの」に分けて検討する。
- 「第2回学習・利用形態部会 検討のまとめ」の「B 上記に関連するその他の取組（情報環境・連携・広報等）」のうち、今回の部会に関連する内容については、あわせて検討する。
- どのように周知していくか、という方法も提示する。また、重点的に周知するターゲット層を検討する。